

新入生の皆さん、森ノ宮医療大学へのご入学、誠にめでたうございます。本日、このスタジアムで、入学生全 543 名をお迎えできたこと、大変嬉しく思います。教職員一同を代表して心より歓迎いたします。また、ご家族の皆様もさぞお喜びのことと思います。心よりお祝いを申し上げます。そして、御来賓の皆様におかれましても、平素の御指導・御支援に加え、本日のご臨席に深く感謝申し上げますと存じます。

さて、皆さんが入学された森ノ宮医療大学は今年 15 周年を迎えました。まだ若い大学ではありますが、しかしながら、わずか 15 年で 7 学科、助産学専攻科ならびに大学院と、関西圏屈指の医療系総合大学として、確固たる地位を築くまでに至りました。特に今年度からは、これまでの 1 学部 7 学科制から、看護学部・総合リハビリテーション学部・医療技術学部と新たに 3 学部へと編成され、教育や研究の質がさらに向上し、これまで以上に魅力的な教育プログラムを皆さんに提供できると考えております。学外からも高い評価を頂いており、医療系大学としては質・量ともに関西圏トップクラスと自負しております。ですから、見事、入学を勝ち取られた皆さんは、どうか、胸を張り、自らに自信を持ってください。そして、我々教職員一同も、選ばれし皆さんを“優れた医療人に育てあげる”、・・・このように心新たにしております。

本日、ここに至るまでの皆さんの道のりは大変困難なものであったらと思います。特に新型コロナウイルスのパンデミック、これはまさに人類史上未曾有の大災害と言えるものでしたが、そのような中、強靱な意志で勉学にはげみ、よくぞ入学を勝ち取られました。そしてまた、このパンデミックにより厳しさを増した医療現場を目の当たりにしながらも、なおも医療職を目指されたこと、皆さんには心より敬意を表します。

このパンデミックという世界的な危機を私たちは体験し、様々なことを感じました。特に価値観の多様性というものが再認識されたように思います。社会がドラスティックに変化する時、あるいは、医学や科学が劇的に変化する時、様々な価値観の分断が起こります。今回のパンデミックもそうでした。感染防御行動のありかた、社会のありかた、ワクチンへの考え方、人それぞれ非常に多彩で、一丸となることの困難さを痛感しました。ただ、価値観というのは本来そういうもので、必ずしも一つに定められるものでもなく、むしろ多様性を尊重することが求められている、このことは皆さんもご存じの通りです。特に医療の分野はそうだと思います。医療の世界では、いかなる立場の患者も、どのような価値観を持つ患者も、平等に最良の治療を受ける権利があり、また医療人はどんな患者に

もそれを提供する義務があります。すなわち、皆さんは、患者との立場や価値観の違いを乗り越えて、理解しあう必要があるということです。

そしてこれは、本学が重視するチーム医療においても同様です。専門性が異なる多職種がチームとして機能するためには、考え方の違いを乗り越えて協働しなければなりません。そしてそのための武器がコミュニケーションです。コミュニケーションは、単に、聞く・伝えるということだけではなく、異なる価値観を統合するための重要なツールです。優れたコミュニケーション能力は、現場で患者と向かい合うための、あるいはチーム医療を牽引するための、そして、多様な価値観が交錯する社会で活躍するための大きな武器です。本学のチーム医療教育でも、このコミュニケーション能力の獲得を大変重要視しています。知識を詰め込むだけでなく、本学で、バックボーンの異なる、様々な価値観を持つ他者と是非積極的に接してください。多様な価値観を認め、尊重し、その中でリーダーシップを取れる社会人に成長して頂きたいと願っています。

さて、皆さんは医療職を目指して本学に入学されました。ここで少し最近の医療についてお話をします。近年の医療には大きな2つの柱があります。1つは、我が国の超高齢化に起因する高齢者医療です。認知症患者や要介護者の増加など、これらは医療問題にとどまらず、家庭の問題であり、地域の問題であり、そして社会的な課題です。このことは皆さんも身近に感じておられていると思います。この高齢者医療においては、「疾患を治療する」というこれまでの概念から、「治し・支える」という概念に大きく転換されました。命には限りがある、死は必ず訪れるという事実から逃げることなく、高齢者が尊厳をもって生きるには、この「治し・支える」、特に「支える」という概念は極めて重要です。この「治し・支える医療」は、医師よりもむしろ、皆さんが目指されている医療職種が活躍すべき分野であって、皆さんなくして高齢者医療は成り立たないと私は思っています。そういう意味で、皆さんは社会から大きく期待されています。是非その期待に応えるべく、本学での4年間を有意義に過ごしてください。

そして、もう一つの柱。それは先進医療です。再生医療や革新的な薬剤、ロボットやAI、医学は加速度的に進歩しています。たとえば皆さんもよくご存じの新型コロナウイルスに対するワクチン。これは20世紀末から急激に発展した分子生物学や遺伝子工学を駆使して、従来の方法をはるかに凌ぐスピードでワクチン開発を成功させました。人類の底力というものを再認識しましたが、皆さんがこれから関わっていくのは、このように、新しい技術や知識があふれるように流れ込む世界です。皆さんが卒業する4年後には、医療はおそらく今この時点

よりさらに進化していると思います。皆さんは日々変化する医療を常に学ぶこと、常にアップデートすることが求められています。

しかし、一方で、高齢者医療であっても、先進医療であっても、どんな医療であっても、普遍的なものもあります。このことは、将来、皆さんが1人の患者さんを目の前にした時、きっと感じるであろうこと、すなわち医療の本質はやはり人間同士の繋がりであるということです。単に知識や技術を使うだけでなく、患者さんの顔を見ること、言葉を聞くこと、手で触れること、寄り添うこと、そういう古典的な医療というのはおろそかにはできません。科学的な目と患者に寄り添う人間性、この両者を皆さんの中に根付かせたいと私たちは思っています。是非、皆さんもそれを意識して学んでください。

さて、最後に、もうひとつ、皆さんにお願いしておきたいことがあります。これから皆さんの大学生活が始まりますが、大学での学びはこれまでの学びとは異なります。主体的に学ぶことが求められます。これからは、2つの「じりつ」を意識してください。ひとつは「自ら立つ自立」。職業に直結する本学の学びは、社会人として「自立」するための、まさに生きるための学びです。だからこそ、受身ではなく主体性をもって自立して学んでください。大学教育は主体的な学びの場です。

もうひとつの「じりつ」は「自らを律する自律」です。安易に流されることなく、自らを律すること、熟考し行動すること・・・この「自らを律する自律」を意識して、医療人を目指すにふさわしい、品位ある行動をとってください。本学での学生生活を通じて、この2つの「じりつ」を身につけ、すばらしい医療人・社会人となることを願っています。

それでは、皆さん、明日から新しい生活が始まります。積極性と好奇心をもって、節度と責任をもって、何より本学にふさわしい、あるいは医療人を目指す学生にふさわしい品位と品格をもって、貴重な大学生活を有意義に過ごしてください。

令和4年度、森ノ宮医療大学入学生543名の輝かしい前途を祈念しております。本日は誠にありがとうございます。